

# 平成 10 年度研究

## < 研究テーマ >

### 豊かな言語の力に支えられて生き生きと自己を表現する国語教室

香小研国語部

#### 1 テーマ設定の背景

今、学校教育に求められているものは、国際化・情報化等が進み急激に変化する社会を、よりよく「生きる力」の育成である。「生きる力」とは、「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」「他者を思いやる心や感動する心等の豊かな人間性」「たくましく生きるための健康や体力」を培うことにより育成されるものと中教審第1次答申では述べられている。また、昨年6月に公表された第2次答申では、「ゆとり」の中で子どもに「生きる力」を育むことを理念としつつ、形式的な平等の重視から個性尊重への転換を目指し、個々の能力・適正に応じた教育展開の重要性を強調している。

これまでの国語教室では、学習指導要領に明記されている「目的や意図に応じて適切に表現する能力と相手の立場や考えを的確に理解する能力を養い、思考力・想像力及び言語感覚を育てる」ことを目標として、「生きる力」の育成を目指し、様々な授業改善に努力してきた。さらに、言語の教育としての立場を明確に持つ国語科として、今後、どのような方向で授業改善を進めていくべきであろうか。

現代を生きる子どもたちの言語生活を見つめた時、手紙一本満足に書けない、挨拶も満足にできない、ことばが乱れている等がよく指摘される。これらは、単に言語生活における問題だけにとどまらず、自己表現の稚拙さや人間関係の希薄化を作り出し、子どもの孤立化・無気力化、しいては、心の荒廃を生み出している。

このような子どもたちに、研ぎ澄まされた言語感覚を培うことにより、みずみずしい感性と豊かな心を育まなければならないと考える。なぜなら、言語の教育は、心豊かな人間を育成することと表裏一体の関係にあるものだからである。

そこで、これからの国語教室では、豊かな言語の力を培いながら、自己表現力や他者とのコミュニケーション能力を育むことが重要となってくる。確かさを包含した豊かな言語の力を糧に、自己・他者・学習材との対話を活性化することで、自己理解・他者理解を深めつつ、自立と共生の心を育み、「生きる力」が育成されるものとする。

このようなことをふまえ、本年度、香小研国語部会では、

豊かな言語の力に支えられて生き生きと自己を表現する国語教室

をテーマとし、研究を進めていくこととした。

#### 2 テーマについて

テーマについては、以下のように捉えている。

##### 「豊かな言語の力」とは

話す・聞く・書く・読むという一連の言語活動を、正確で適切なことばを使って行う能力である。具体的には、次のような能力である。

- ・ 文字・音声等の言語媒体を活用し、自己の内面を状況に応じて適切に表現する能力
- ・ 文字・音声で表された言語の内容や表現を、読解や聴取などを通して正確に理解する能力
- ・ 言語を媒体として自己の思いを表出し、伝達し合うコミュニケーション能力
- ・ 自己の生活経験や感性を基盤に、言語を媒体として、思考・想像・判断を行う能力

#### 「生き生きと自己を表現する」とは、

自己の思いや願い・考えなどを目的や状況に応じて、主体的に文字言語や音声言語で豊かに表現することをいう。この過程で、子どもは、必然的に思考力や想像力、言語感覚を磨き上げていくことになる。

#### 「国語教室」で豊かな言語の力を培っていくことは

心豊かな人間づくりに、大きく寄与するものである。我々国語教師は、教科の学習指導のみに留まらず、自らの教室の子どもに、言語の力を培っていくことで、個性豊かな人間づくりに大きく関与しているのである。

### 3 教育課程審議会「審議のまとめ」とテーマとの関連

本年6月22日に提示された教育課程審議会「審議のまとめ」でも、以下のような改善の基本方針が示唆されている。

小学校、中学校及び高等学校を通じて、言語の教育としての立場を重視し、国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重してことばで伝え合う能力を育成することに重点を置いて内容の改善を図る。特に、文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てることを重視する。

そのため、現行の「表現」及び「理解」の各領域と「言語事項」の構成を改め、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の領域と「言語事項」から内容を構成するとともに、実践的な指導の充実を図る観点からも、説明や話し合いをすること、記録や報告をまとめることなどの言語活動例を示すようにする。その際、各領域の指導が調和的に行われるよう、各学校段階の特質等に応じてそれらの指導時数の目安を示すことを考慮する。

教材は、児童生徒の心身の発達段階を考慮し、各領域にふさわしいものを調和的に取り上げ、文学的な文章に偏らないようにする。また、広く我が国の言語文化に親しみ、ものの見方や考え方を豊かにするような教材を取り上げるように配慮する。

古典に関する指導については、・・・古典に親しむ態度の育成を重視する。

漢字の指導については、・・・確実に漢字の力を育成するようにするため、児童生徒の学習負担を配慮しつつ、読みの指導は基本的に現行どおりとしつつ、書きの指導については上の学年に移行する。その際、学年ごとに配当されている漢字の書きについては、当該学年では漸次文や文章の中で書くようにし、上の学年までに文や文章の作成にあたって十分使用できるよう時間をかけて指導することとする。また、学年別漢字配当表に示す漢字の取扱いを一層弾力化する。

書写の指導については、文字を正しく整えて生活に役立つ書写の力を育成するために指導の在り方を改善する。

また、具体的な事項としては、次のように述べられている。

日常生活に必要な話す・聞く、書く、読むなどの基礎的な内容を繰り返し学習し確実な言語能力を育成することを重視し、内容の改善を図る。

(ア) 「話すこと・聞くこと」の領域では、目的や場面に応じて、自分の考えをもって相手に分かるように話したり相手の話の要点を聞いたりする能力の育成を重視する。そのため、簡単なスピーチや説明をすること、話し合いをすることなどの言語活動例を示す。

「書くこと」の領域では、相手や目的に応じて、必要な事項を集めたり選択したりして内容や文章を構成する能力の育成を重視する。そのため、手紙を書くこと、記録や報告をまとめることなどの言語活動例を示す。

「読むこと」の領域では、目的や意図に応じて要点や要旨などを読み取る能力や読書に親しむ態度の育成を重視する。そのため、読み聞かせや読書紹介、学校図書館を利用して調べることなどの言語活動例を示す。

(イ) 児童の発達段階や中学校との関連に十分配慮しつつ、学校や児童の実態に応じて重点的に指導できるよう、目標や内容を2学年まとめて示すようにする。

(ウ) 現在、どの学年でも指導することになっている指導事項について全体として精選し、例えば、段落分けの指導は第3・4学年で、人物の気持ちの読み取りの指導は第5・6学年で重点的に取り扱うようにするなど、児童の発達段階に応じ重点的な指導が行われるようにする。

(エ) 文字、表記、語句、文章構成、言葉遣いなどの「言語事項」については、基礎的な言語能力を養うとともに、児童の発達段階に応じ重点的な指導が行われるよう、中学校の内容との関連を図りつつ、基礎的な文字や表記、音声言語、簡単な文や文章の組立てや校正などについて内容の指導を重視する。

(オ) 古典に親しむ態度を育成するために、親しみやすい文語調の文章について音読を中心に指導することとする。

このように、今後、国語科では、厳選された基礎的・基本的な言語能力の育成を基盤にして、児童の実態に即した指導を進めながら、音声言語・文字言語を媒体とする論理的思考力、自己表現力及びコミュニケーション能力、情報収集・選択・伝達能力、読書に親しむ態度等の育成をさらに充実させることが提言されているのである。

わたしたちは、本テーマの研究を推進していくことで、これらの提言に対応する授業の方向性が明らかになり、激変する社会を生きる子どもたちが、それぞれの国語教室で、豊かな人間関係を築きつつ、望ましい人生を切り拓いていく力と意欲を培っていくものと考えている。

#### 4 授業改善の視点

前記に掲げた研究テーマを具現化するために、下記に示す3つの授業改善の視点から授業実践を積み重ねていきたいと考える。

##### <視点1>

子どもが自らの力で思考・表現し行動する過程で、表現力・理解力の基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

##### <視点2>

子どもが生き生きと自己の読みや思いを表現するために、他教科との関連を図ったり「話す・聞く・書く・読む」の言語活動を総合的に展開したりするような単元の構成を工夫する。

##### <視点3>

一人一人の個性を生かすために、個々の子どもの学習スタイルに応じた活動の多様化を図ったり、学校図書館・情報機器の効果的な活用を工夫したりする。

## 5 それぞれの視点からアプローチする各都市の研究

本研究テーマ及び授業改善の視点を受けて、各都市では、次のようなテーマの基に授業研究が推進されている。

郡 市	研 究 テ ー マ	視 点
小 豆	県テーマと同じ	2
大 川	確かで豊かな国語の力を育てる指導 －人間関係を育てる音声言語の指導の在り方－	1
木 田	内容を豊かに読み取り，生き生きと表現する子どもの育成	2 3
香 川	県テーマと同じ	1
綾 歌	子どもが豊かに表現できる国語科学習をめざして	2
仲多度 善通寺	進んで自分の考えを豊かに表現する児童の育成 －感性を育む支援の工夫－	1
三 豊 観音寺	主体的な読みを深めていく国語科学習	1
高 松	生きる力を育てる国語教室の創造 －話す力・聞く力を中心にすえた国語学力の再考－	1 2 3
坂 出	自ら意欲的に表現する子どもの育成 －基礎・基本的な内容を明確にして－	1
丸 亀	生きてはたらく表現力を培う国語教室	2

それぞれの都市では、主として上表の視点から研究がなされているが、他の視点も加味した研究がなされている。